

表1 指導過程の基本型

段階	主な活動と手だて
導入	◎ねらいとする価値への方向づけ ・ねらいとする価値に興味、関心を向けさせる。
展開	◎中心資料を通した価値の追求、把握 ・登場人物（特に主人公）に十分共感させる。 ・中心発問で多様な考え方、感じ方を引き出し、価値観から3~4のタイプに類型化する。 ・意図的な指名を工夫する。
内省化	◎今までの自分の主体的な内省 ・価値観の類型に自分を当てはめ、今までの自分はどれに近いか自覚させる。 ・できなかった自分の具体例を1~2発表させる。
終末	◎ねらいとする道徳的価値についての整理とまとめ ・教師の経験談、説話、格言、作文等を利用する。

「一人一人に道徳的価値を気づかせ、自分を見つめさせる指導過程の工夫」

五、研究実践の概要  
授業研究部の実践

(1) 研究テーマ  
「一人一人に道徳的価値を気づかせ、自分を見つめさせる指導過程の工夫」

- (一) 全教育活動と有機的関連が図れるような道徳教育全体計画の改善
- (二) 道徳的に望ましい行いを行うことの奨励、賞揚を大切にしたい道徳的実践の指導
- (三) 自ら実践できる意欲の醸成と豊かな心の陶冶を目指した環境構成
- (四) 望ましい人間関係を育てる学級づくり
- (五) 価値観の類型化、内省化を目指した授業の改善
- (六) 道徳の授業の公開、広報活動、懇談会などを通した家庭との連携

のテーマのもとに、次のような児童をめぐり実践に当たっている。  
低学年……自分と違った考え方があふことに気づき、自分の生活を振り返り、自分の良い点、悪い点に気づく。  
高学年……様々な価値観に気づくとともに、より高められた価値観に照らして自分が努力しなければならぬことに気づく。  
(2) 研究内容と実践  
前述のテーマを受け、価値観の類型化と内省化を取り入れた指導過程を組むことにした。

表2 アンパイアの心 (一部)

段階	方向づけ	展開 (内省化・追求・把握)	指導の手だて
発問	略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生に決められた時、公一は何を考えたか。</li> <li>・こわいから判定を変えよう</li> <li>・こわいから判定を変えようか</li> <li>・でも変えたら相手側に悪いな。</li> <li>・いくらつめよられても、判定を変えるわけにはいかない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暴力も振るいかねない中学生に決められた時の公一の気持ちを類型化させる。</li> </ul>
終末	略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふだんあまり仲のよくない友だちに對して、どう行動することが多かったか。</li> <li>・右の1~3の価値観に照らして公正・公平に對する今までの自分の考え方を振り返らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、自分の利害にとらわれ公平にふるまえない。</li> <li>2、自分の利害にとらわれやすく、公平に欠けることが多い。</li> <li>3、自分の利害にとらわれず公正、公平にふるまう。</li> </ul>

- ① 指導過程の基本型 (表1)
  - ② 価値観の類型化  
道徳の時間は、より高められた価値観に照らして、今までの自分はどうであったか、という生き方をしてきたかを見つめる時間である。自分を振り返るためのよりどころを持たせるといふ点で有効な手法であると考えた。
  - ③ 内省化  
この段階は道徳的価値を主体的に自覚させるものである。高められた価値観に照らして、今までの自分の生き方、考え方をみつめると、多くの場合、不十分だった自分に気づくことになろう。そうすることが、道徳の実践力をつける一方法と考えた。
  - ④ 実践例 (表2)
- (一) 指導研究部の実践  
研究テーマ  
「道徳的に望ましい行いを行うことを奨励したり、賞揚したりして基本的な生活習慣の形成を目指し、自分から実践できる力を育てる指導のあり方」
- (2) 研究テーマのとらえ方  
① 基本的な生活習慣の形成  
② 体験的な活動による体得と感得